

環境経営レポート

活 動 期 間

2023年4月 ～ 2024年3月



®

エコアクション21

認証番号 0000346

2024年8月19日

株式会社 大森製作所

目次

1 組織の概要	P－3
2 対象範囲、レポートの対象期間及び発効日	P－3
3 環境経営組織	P－4
4 環境経営方針	P－5
5 環境経営目標	P－6
6 環境経営計画 【本社・工場】【大分工場】	P－7
7 環境経営目標の実績 【本社・工場】【大分工場】	P－8
8 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	
1) 取組結果とその評価	P－9 , 10
2) 取組結果と課題、次年度の取組	P－11
9 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P－11
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P－12

1.組織の概要

1) 事業者名及び代表者氏名

株式会社 大森製作所 代表取締役社長 大森 正記

2) 所在地

本社・工場; 神奈川県藤沢市羽鳥1丁目3番15号
大分工場; 大分県中津市大字永添字安久2646番地29

3) 環境管理者及び連絡先

責任者 代表取締役 社長 大森 正記

担当者 専務取締役 総務部長 大森 桂吾

連絡先

本社; 電話 0466-36-8156 FAX 0466-34-9341

大分工場; 電話 0979-22-2323 FAX 0979-22-8989

4) 事業の概要

自動車部品の製造で主に、丸棒及びパイプ曲げ、パイプ絞り、
拡張及び縮管、それらを溶接、表面処理、組立までの一貫した
加工。自動車用各種プレス部品の製造・販売。

5) 事業規模等

・創業 昭和22年（1947年）

・延べ床面積 3,285㎡(本社・工場)
6,611㎡(大分工場'21/8/1～)

・人 員 本社・工場 41名
大分工場 21名（総員 62名）

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発効日

1) 対象範囲

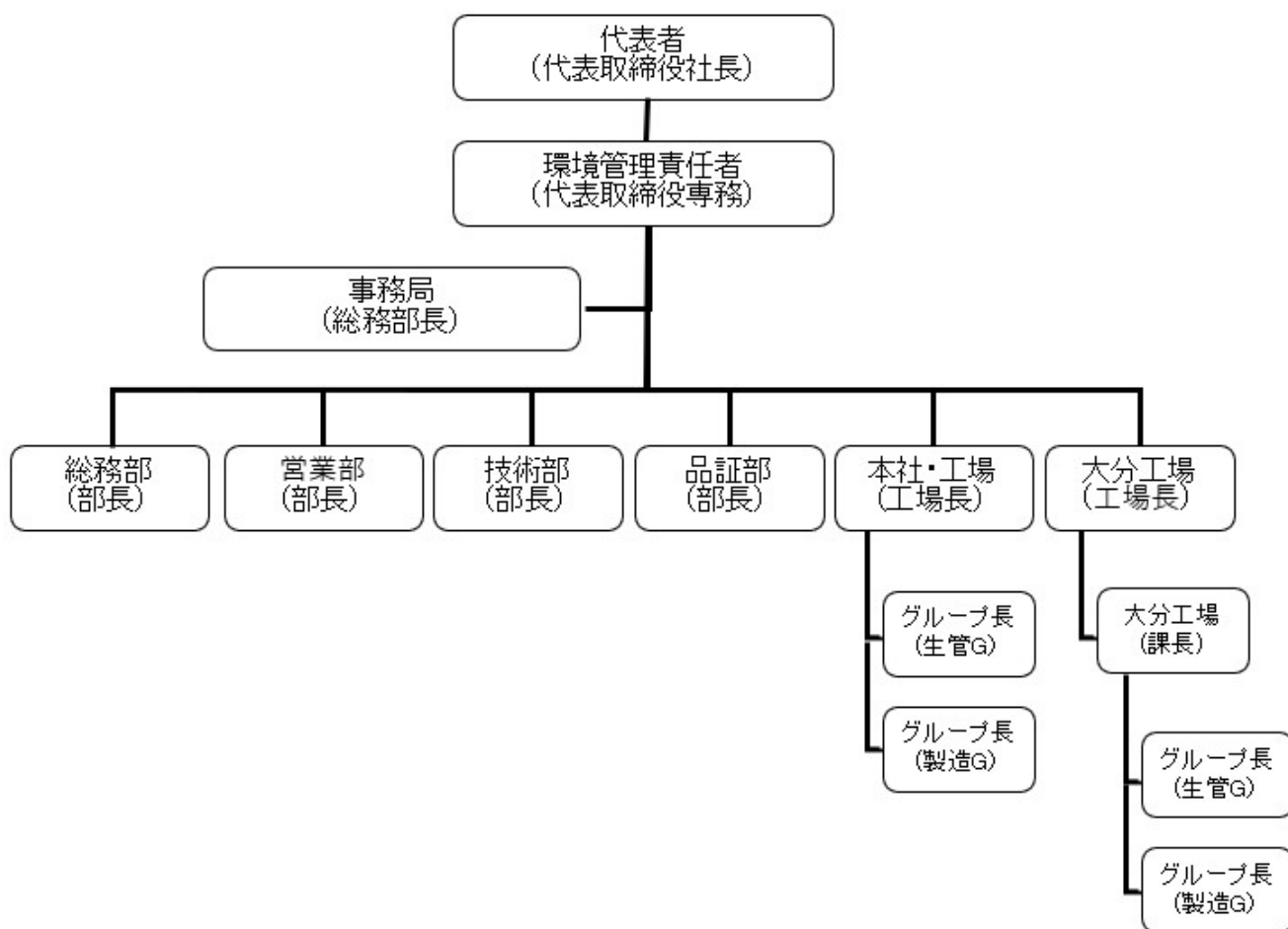
対象組織;本社・工場
大分工場

対象活動;自動車部品製造・販売

2) レポートの対象期間及び発行日 表紙に記載

3.環境経営組織 (体制)

2023年4月26日 改定
2010年6月18日 制定
環境管理責任者 大森 桂吾



役職	責任および権限
代表者 (社長)	1. 環境管理責任の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定 6. 代表者は、経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
環境管理責任者 (専務)	1. 環境経営システムの確立、実施および維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実績報告 3. 諮問機関である環境管理委員会の委員長として委員会の運営 4. 推進機関であるEA21EMS事務局の責任者として事務局運営 5. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者
事務局 連絡担当者 (総務部長)	1. 環境管理責任者を補佐し、事務局として事務手続き等の事務を遂行する 2. EA21地域事務局かながわへの審査申込み並びにEA21審査員への審査依頼等の手続き 3. 10文書および8記録データ等の取りまとめ
部門責任者 (部長・工場長)	1. 部門の環境経営システムの総括責任者
課長・グループ長	実施責任者
作業員	作業の中で環境活動を実施する

環境経営方針

[理念]

当社は、社会の一員として地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

[方針]

事業活動である自動車部品の製造から販売のなかで、製造での素材の仕入れから加工・販売に於いて、環境に何らかの影響を与えていることを認識し、日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して行動するため、次に示す環境活動を行います。

- 1. 事業活動としての環境に与える影響を的確に把握し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定め、管理プログラムを設定しこれを実行すると共に定期的に見直しを行い、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善・向上を図ります。
- 2. 環境の法律を遵守し、環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策は、社内組織に適用される。
- 3. 事業活動の中で、特に以下の項目について優先的に保全活動を推進します。

1) 環境経営保全活動

- (1) 製造工程で消費する、電気及び炭酸ガス(CO2)を効率良く使用する。
- (2) 製造工程では、“不適合品を作らない”品質向上活動を推進する。

2) 省資源活動

- (1) コピー用紙／OA紙等の両面使用と各自の責任に於いてペーパーレス活動に努めます。
- (2) 生産に使用する素材のスクラップを分別収集し、リサイクル率の向上を図る。

—この環境経営方針は、全ての従業員に周知し、社外の人にも公開します—

2022年5月26日 改定⑦
2004年1月19日 制定

株式会社大森製作所

代表取締役社長 大森 正記

5.環境経営目標

(⑤)

環境経営目標【本社・工場】

基準年：目標値の基準年は、昨年度とする。(目標-2%/毎年)

インプット項目	単 位	基準値 (昨年2022度)	2023	2024	2025
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	111,871	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	Kg-CO2/万円	2.59	2.54	2.49	2.44
廃棄物総排出量	kg	27,685	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	kg/万円	0.64	0.63	0.62	0.60
総排水量	m3	296	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	m3/万円	0.0069	0.0068	0.0067	0.0066
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
流出不良件数	件	5	3	3	3

注-1「化学物質使用量」は未使用

(文⑤)

環境経営目標【大分工場】

基準年：目標値の基準年は、昨年度とする。(目標-2%/毎年)

インプット項目	単 位	基準値 (昨年2022度)	2023	2024	2025
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	50,829	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	Kg-CO2/万円	1.52	1.49	1.46	1.43
廃棄物総排出量	kg	2,011.45	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	kg/万円	0.060	0.059	0.058	0.056
総排水量	m3	104	—	—	—
生産量(継続部品売上高)	m3/万円	0.00310	0.00304	0.00298	0.00292
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
流出不良件数	件	0	0	0	0

注-1「化学物質使用量」は未使用

環境経営目標【全体】

基準年：目標値の基準年は、昨年度とする。(目標-2%/毎年)

インプット項目	単 位	基準値 (昨年2022度)	2023	2024	2025
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	162,700	—	—	—
売上高	Kg-CO2/万円	2.13	2.09	2.05	2.00
廃棄物総排出量	kg	29,696.45	—	—	—
売上高	kg/万円	0.388	0.380	0.373	0.365
総排水量	m3	400	—	—	—
売上高	m3/万円	0.0052	0.0051	0.0050	0.0049
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
流出不良件数	件	5	3	3	3

注-1「化学物質使用量」は未使用

6.環境経営活動計画

【本社・工場】

No	中期目標	年度目標	施策	責任者
1	二酸化炭素削減	2.54Kg-CO2/万円	1.電力 1) 照明用 不要な照明の消す 推進 2) 設備機械 休止設備に電源投入させない 推進 3) エンプレス 稼働台数の維持(1台稼働) 4) エアコン 室温 夏26～28℃・冬20℃推進 5) 電力デマンド管理 2.ガソリン 移動のムダ削減 推進 3.灯油 暖かい日はこまめに消す 推進	グループ長 植田G長 小石工場長 総務部長 総務部長 総務部長 グループ長
2	総廃棄物排出量削減	0.63Kg/万円	1.廃棄物 1) 単純焼却(可燃) 梱包資材の廃止、削減 荷姿見直し 推進 2) 廃プラと可燃物の分別推進 2.再生利用 循環資源 推進 段ボール 廃油 金属くず、スクラップ 3.プリントアウトの削減 推進 4.コピー紙、写真、図面などを電子データ化 推進	金子課長 グループ長 グループ長 グループ長
3	排水量削減	0.0068m3/万円	水の利用、節水の繰り返しPR 推進	グループ長
4	自らが生産・販売提供する製品及びサービスに関する。	3件	1.炭酸ガス使用量 漏れ撲滅 2.”不適合品を作らない”品質向上活動	植田G長 グループ長
5	グリーン購入	調達推進	エコ対象品の購入を拡充を計る。	中野G長

【大分工場】

No	中期目標	年度目標	施策	責任者
1	二酸化炭素削減	1.49Kg-CO2/万円	1.電力 1) 照明用 不要な照明を消す 推進 2) 設備機械 休止設備に電源投入させない 推進 3) エアコン 室温 夏26～28℃・冬20℃推進 4) エアー漏れ箇所の有無確認 2.ガソリン 移動のムダ削減 推進	岩男工場長 グループ長 グループ長 グループ長 佐藤課長
2	総廃棄物排出量削減	0.059Kg/万円	1.廃棄物 1) 単純焼却(可燃) 梱包資材の廃止、削減 荷姿見直し 推進 2) 廃プラと可燃物の分別推進 2.再生利用 循環資源 推進 段ボール 廃油 金属くず、スクラップ 3.プリントアウトの削減 推進 4.コピー紙、写真、図面などを電子データ化 推進	グループ長 グループ長 グループ長 グループ長
3	排水量削減	0.0030m3/万円	水の利用、節水の繰り返しPR 推進	グループ長
4	自らが生産・販売提供する製品		1.炭酸ガス使用量 漏れ撲滅	グループ長
5	グリーン購入	調達推進	エコ対象品の購入を拡充を計る。(本社で購入処理)	グループ長

7.環境経営目標とその実績

FY23環境経営目標評価書【本社・工場】

(記号)

2024年6月27日	
關大森製作所	
承認	作成
大森(桂)	中野

No.	推進項目	単位	目 標	実 績	評価	備考
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	-	86,788	-	
	生産量(継続部品売上高)	Kg-CO2/万円	2.54	1.75	○	
2	廃棄物総排出量	kg	-	40,727	-	
	生産量(継続部品売上高)	kg/ 万円	0.63	0.82	×	
3	総排水量	m3	-	378	-	
	生産量(継続部品売上高)	m3/ 万円	0.0068	0.0076	×	
4	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
	流出不良件数	件	3	7	×	

注:電力の排出係数=0.303(kg-CO2/kWh)

FY23環境経営目標評価書【大分工場】

(記号)

2024年6月27日	
關大森製作所	
承認	作成
大森(桂)	中野

No.	推進項目	単位	目 標	実 績	評価	備考
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	-	90,538	-	
	生産量(継続部品売上高)	Kg-CO2/万円	1.49	1.56	×	
2	廃棄物総排出量	kg	-	2,445	-	
	生産量(継続部品売上高)	kg/ 万円	0.044	0.0421	○	
3	総排水量	m3	-	130	-	
	生産量(継続部品売上高)	m3/ 万円	0.0030	0.0022	○	
4	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
	流出不良件数	件	0	0	○	

注:電力の排出係数=0.407(kg-CO2/kWh)

FY23環境経営目標評価書【全体】

(記号)

2024年6月27日	
關大森製作所	
承認	作成
大森(桂)	中野

No.	推進項目	単位	目 標	実 績	評価	備考
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	-	177,326	-	
	生産量(継続部品売上高)	Kg-CO2/万円	2.09	1.65	○	
2	廃棄物総排出量	kg	-	43,172	-	
	生産量(継続部品売上高)	kg/ 万円	0.374	0.401	×	
3	総排水量	m3	-	508	-	
	生産量(継続部品売上高)	m3/ 万円	0.0051	0.0047	○	
4	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する					
	流出不良件数	件	3	7	×	

8.環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(②)

1) 取組結果とその評価

【本社・工場】

No.1 二酸化炭素削減(温室効果ガス排出量)

エネルギー使用量		(2022)	(2023)	(前年比)
＜購入電力＞	(単位;kWh)	198,836	246,517	24.0%
照明用『不要な照明は消す』 休止設備に電源を入れない コンプレッサー『負荷軽減』 エアリーク・新鮮な空気取り入れ				実施中
＜化石燃料・灯油＞	(単位;L)	1,182	1,271	7.5%
＜化石燃料・ガソリン＞	一般車両 (単位;L)	909	1,169	28.6%
	フォークリフト (単位;L)	2,386	2,680	12.3%

No.2 廃棄物排出量削減<一般・産業廃棄物>

① 燃焼・中間処理

その他可燃ごみ<一般廃棄物>	(単位;kg)	3,175	1,957	-38.4%
安定型混合廃棄物	(単位;kg)	3,770	2,270	-39.8%

② 再資源量

段ボール<一般廃棄物>	(単位;kg)	830	870	4.8%
金属くず・スクラップ<産業廃棄物>	(単位;kg)	19,730	27,880	41.3%
廃プラスチック類	(単位;kg)	—	5,950	—
廃油<産業廃棄物>	(単位;kg)	540	1,800	233.3%

No.3 排水量削減

節水の繰り返しPR	(単位;m ³)	296	378	27.7%
-----------	----------------------	-----	-----	-------

No.4 ”不適合品を造らない”品質向上	流出不良目標3件、実績	7件	
(単位;件)	5	7	2 件

【大分工場】

No.1 二酸化炭素削減(温室効果ガス排出量)

エネルギー使用量 (2022) (2023) (前年比)

＜購入電力＞ (単位;kWh) 168,797 220,660 30.7%

照明用『不要な照明は消す』
休止設備に電源を入れない } 実施中

＜化石燃料・ガソリン＞ 一般車両 (単位;L) 373 314 -15.7%

フォークリフト ALL電化の為なし

No.2 廃棄物排出量削減＜一般・産業廃棄物＞

① 一般廃棄物
木くず ＜再利用＞ (単位;kg) 995 670 -32.7%

可燃ごみ ＜燃焼＞ (単位;kg) 521.45 1125.36 115.8%

② 再資源量
廃プラスチック類 (単位;kg) 300 170 -43.3%

金属くず・スクラップ＜産業廃棄物＞(単位;kg) 0 480 48000.0%

③ 管理型埋立物 (単位;kg) 195 0 -100.0%

No.3 排水量削減

節水の繰り返しPR (単位;m³) 104 130 25.0%

No.4 ”不適合品を造らない”品質向上 流出不良目標0件、実績 0件

(単位;件) 0 0

2) 取組結果と課題、次年度の取組

(1) まとめ

【本社・工場】

- ・前年度分と比較すると全体的の使用量が増えているが、2022年度より稼働日が増えた為売上高が増えているので、環境経営目標値としては達成している。
- ・安定型混合廃棄物が廃プラスチック類と分別回収を開始したことにより前年度より減りました。
- ・金属くずが機械の廃棄が有った為、大幅に増加してしまった。
- ・排水量の増加はコロナ対策として手洗いの徹底と、9月末にトイレの詰まりの修理に多くの水を使用した事があった。引き続き無駄な流水が無いように張り紙等で周知する。
- ・23年度を基準値とする目標値に対して総排水量と流出不良件数以外の項目が目標達成している。次年度も引き続き目標達成に努める。

【大分工場】

- ・購入電力の使用量が前年比30.7%増加しているが、2022年4月～10月の間稼働日の38.1%休業していて、電気の使用量が少なく、2023年の4月～10月は休業日なしで通常に戻った為である。
- ・その他の項目は日々の努力により目標値より減っており、目標達成している。

(2) 今後の課題

【本社・工場】

- ・消費電力の削減、及び節水を引き続き努める。
- ・2024年度電力会社変更予定があり、更なる節電に努める
- ・廃棄物排出量削減としてゴミ分別の徹底の打ち合わせをし、掲示物等で意識向上を行う。
- ・排水量の削減として、昨年詰まりや漏れが発生していたので、日頃の清掃と詰まり対策を強化する。
- ・不良流出件数目標未達成は、ISO9001の活動の中において引き続き管理し達成するように進めること。

【大分工場】

- ・2023年度の実績を目標とし、削減に努める。
また、本社で削減に効果があったこと等を担当者間で共有し、お互いの削減効果の向上に努める。

9.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

遵守義務のある主な法規関係

法規名称	摘要 要求事項	遵守状況確認・評価	
		チェック日	結果
廃棄物処理法	・産業廃棄物保管基準 ・産業廃棄物管理票	2024/3/28	○
公害防止組織法	・特定工場を設置している者(特定事業者)	2024/3/28	○
騒音規制法	・指定地域内における特定施設の届出	2024/3/28	○
振動規制法	・指定地域内における特定施設の届出	2024/3/28	○

当社に係る環境関連法規等は上記の通りですが、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

(15)

全体評価

【本社・工場】

23年度の活動の結果の中で、流出不良が 7件と目標3件に対し達成出来なかった。
標準作業を徹底し、今後も目標達成の為に努める。

目標に達成出来なかった項目(廃棄物・排水量)に関して、例外的な事(機械の廃棄、
排水管の詰まり)の影響が大きくあったが、排水管の詰まりなどは日々の清掃・管理をする
事によって回避可能な為、次年度も引き続き活動を積み重ねて目標を達成させること。

【大分工場】

2023年度は認証取得の年であり、初めて前年度の実績との比較を行った結果、電力以外は
目標達成となった。

23年度の活動の結果の中で、流出不良が 0件で引き続き来年度も目標を0件で
達成する様に努める。

【全体】

今後も環境経営目標達成に向けて大分工場も加わり全社員が環境に対する意識を高め、
意見を出し合い環境活動に取り組んでみます。

《 見直し結果 》

項 目	変更の必要性
環境経営方針	有り
環境経営目標	無し
環境経営計画	無し
実施体制	無し

以上